青木の風

生きる　創る　そして輝く

学校だより１２月号

令和５年１１月３０日
横浜市立青木小学校

世界へ輝け　青木小 ―150（いこーぜ）フェスティバルの様子から―

校長　後明　好美

11月10日、創立150周年を祝う子どもたちの集会、「150（いこーぜ）フェスティバル」が開催されました。いこフェス（「150フェスティバル」の略）プロジェクトの子どもたちを中心に企画をし、当日は御来賓の方々に多数お越しいただき、青木小の子どもたちらしいアイデアがつまった楽しい集会となりました。

楽しいタイトルや　落ち着いた子どもの姿　これが「青木の風」

クラスごとに作成したクイズから選ばれた青木小クイズや鈴割、本年度全校で作ったオリジナルソング斉唱などに加えて、６年生有志の楽しい寸劇もあり、会場の体育館は子どもたちの笑顔でいっぱいになりました。「パンパカパーン！150（いこーぜ）くす玉様の登場だぜ」「青木小の　青木小による　青木小のための　150周年を盛り上げる歌」等、**プログラムの各ネーミングに工夫が効いているのも、本校らしさだと感心**しました。**本校では当たり前ではあるのですが、全ての進行や司会等も子どもたちだけでできている**ことも、大変すばらしかったです。担当の子どもが呼名されると、「はい！」としっかり返事をして、大変落ち着きのある態度で役割を果たしている姿が随所に見られました。**青木の子どもたちは、どんなに大勢の前でも、ときにハプニングが起こっても、落ち着いて自分の力を発揮し切れます**。「これを校風というのだな」と、子どもたちの姿から改めて青木の風を感じた１日となりました。

子どもたちの柔軟性と臨機応変な対応　これが「青木の風」

当日は、全校児童によるバルーンリリースも予定していたので天気がもってほしいと願っていましたが、早めに雨が降る予報になったため、フェスティバル開始を９時に早めました。加えて、会の途中にもプログラムを変更して、降雨の前に急遽バルーンリリースを前倒しさせることとしました。**ここで素晴らしかったのは、子どもたちの姿**です。プロジェクトの子どもたちはプログラム変更に全く動じることなく、「わかりました。」の一言でさっと運営の順序を変えて進行をしました。全校の子どもたちも、風船を持って校庭に出て、リリース終了後に再び体育館に戻って集会の続きを行うという事前指導がなかった動きを、とてもスムーズに行いました。

「子どもたちのために！」　ＰＴＣＡ　おやじの会　地域の方々も「青木の風」

約８００個の風船を膨らませてくださったのはＰＴＣＡとおやじの会の方々で、朝７時すぎから作業を始めてくださいました。全校分の作業には３時間かかることを想定していましたが、すばらしいチームワークで１時間余りで作業を完了させてくださったおかげで、集会の開始時刻を早めることができました。周年実行委員会でも、バルーンリリースを了承いただきました。「子どもたちのために！」と、みなさんが間に合わせてくださったこと、大変ありがたかったです。

バルーンリリースをした瞬間には、子どもたちの「わあっ！」という声が上がりました。そしていつまでも、高く上がっていく風船を目で追う子どもたちの姿がありました。「令和の未来へ飛んでいくんだ・・・。」と大人のようなことをつぶやく声や、「魔法の絨毯みたい！」とかわいらしいつぶやきも聞こえてきました。子どもたちの心の中にこの150周年の一日がいつまでも残るとよいと思います。

本号のタイトル「世界へ輝け　青木小」は、フェスティバルの副題です。この副題通り、150年を超えて**世界へ輝く青木の子どもたちであってほしい**と願った一日となりました。

12月もどうぞよろしくお願い申し上げます。